

## 十和田市事務事業評価シート

### 【事務事業の概要】

整理番号	95	実施計画番号	45
事務事業名	「とわだっこ学力向上アクションプラン」の推進		事業開始年度 平成19年度
担当課名	指導課		事務の種類(選択) 自治事務
根拠法令等	関連事務事業		
背景や経緯等	「確かな学力」の着実な定着を目指して、平成19年度に本プランを策定し、総合的・計画的な学力向上策に取り組んできた。平成24年度にはこれまでのプランを見直して、新たに「夢・希望・志はぐくみプラン」を策定し、再スタートを切った。		
事務事業の目的	学力向上策を総合的かつ計画的に推進し、次代を担う児童生徒が変化の激しい社会を生き抜いていくために必要な「確かな学力」の着実な定着を図る。		
実施状況	平成24年度に策定した「夢・希望・志はぐくみプラン」は、学力向上と知徳体の調和のとれた児童生徒の育成を目指した、指導課による支援事業の総称である。学力向上面では、主に、中学校学力向上対策事業、小・中学生学力検査・知能検査の用紙代補助を行った。		

### 【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	3	3	3
	人件費(千円)	108	108	108
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	0	0	0
	活動日数(日)	0	0	0
	人件費(千円)	0	0	0

### 【事業費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
事業費合計(千円)		3,915	3,900	5,021
うち一般財源		3,915	3,900	5,021
うち国県支出金		0	0	0
うち地方債		0	0	0
うちその他		0	0	0

### 【指標】

活動指標	活動指標名①		学力検査用紙代補助の対象学年数			
	計算式等		単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
			学年分	5	5	7
	活動指標名②					
成果指標	成果指標名①		学習状況調査における小学校5年生の平均通過率			
	計算式等		単位	23年度	24年度	25年度
			%			
			目標値	76	76	76
			実績値	72.7	73.6	
			達成度(%)	96%	97%	
	成果指標名②		学習状況調査における中学校2年生の平均通過率			
	計算式等		単位	23年度	24年度	25年度
			%			
			目標値	65	65	65
		実績値	59.0	64.7		
		達成度(%)	91%	100%		

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	95
計画No	45

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 <b>0 / 4</b> 学力向上は、児童生徒、保護者の大きな願いであり、ニーズに合致している。	
	② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 <b>1 / 6</b> 学習状況調査の結果に成果が出ている。さらなる成果を目指して、学力検査の補助対象を拡充したい。	
	④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1			
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 <b>0 / 6</b> コスト削減は事業縮小につながり、その余地はないと考える。	
	⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	B	1	3	受益者負担適正化の余地 <b>1 / 4</b> 学力検査を実施する学年、教科のすべてを補助対象としたい。	
	⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
<b>現在の適性</b>					<b>18 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>2 / 20</b>

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択) ⇒ **さらに重点化を図る**

<b>方向性の理由</b> 学習状況調査において好成绩をあげており、ほぼ目標を達成している。ただし、学力検査の補助対象学年や教科に偏りがあるため、補助対象を拡充していきたい。
<b>今後の具体的な取組方策と狙う効果</b> 小学校では対象学年を平成24年度の2・3・4年から1・6年にも拡充したい。中学校では対象教科を平成24年度の3教科から5教科に拡充したい。その上で、目標値の確実な突破を目指す。